

■茶生産特別支援事業【農林水産業費】(継続)

3,419万円  
(農林水産部 農村振興課)

国営開発農地の新しい栽培作物としてお茶の導入を進めています。平成16年度から3年間の計画で和東町の農事組合法人「百姓王国」が久美浜町永留6団地で20畝を目標に取り組み、平成17年度末までに16.3畝の植栽ができました。主に栽培農地の土壌改良、苗木や資材、機械の購入経費などに対して補助しています。また、お茶の栽培農家の育成を図るため「茶の匠塾」を開校し、お茶の栽培をはじめようとする農業者の指導に取り組んでいます。



久美浜町永留6団地で栽培されている植栽2年目のお茶

■森林環境の整備に取り組めます

■竹林整備事業補助金【農林水産業費】(新規) 90万円  
(農林水産部 農村振興課)

森林は、湧水や洪水を緩和し良質な水を育む水源かん養機能、山地災害の防止機能、二酸化炭素の吸収や騒音防止などの生活環境保全機能など多面的な機能を持っています。これらの機能の増進を図るため、森林内の環境を整備する必要があります。このため、市では、集落や農家組合などが行う竹林の伐採・整理、搬出などに対して補助します。また、伐採した竹を粉碎して肥料にするなど有効活用にも取り組めます。

3 漁業・海業(うみぎょう)の振興

■海業振興協議会を設立して新たな振興策を検討します

■海業の推進【農林水産業費】(新規) 68万円  
(農林水産部 海業水産課)

京都府、北丹水産振興会、京都府漁連、商工会、観光協会などと連携して、「海業振興協議会」を組織し、海や漁業を観光などに結びつけた新たな振興策を検討します。

■大型クラゲの被害対策強化のために

■大型クラゲ対策事業補助金【農林水産業費】(新規) 200万円  
(農林水産部 海業水産課)

大型クラゲの大量発生で定置網漁業に被害が相次いでいるため、京都府の補助制度の創設にあわせて、大型クラゲの対策強化に取り組めます。定置網漁を営む団体・個人が大型クラゲ対策のため「防除網」を購入設置した経費の一部を補助します。

■漁港整備を推進します

■地域水産物供給基盤整備事業【農林水産業費】(継続) 1億3,253万円  
(農林水産部 海業水産課)

平成14年度から網野町の浜詰漁港を整備しています。海が荒れていても生簀(いけす)から魚が捕れて新鮮な魚が食卓へ届けられるよう、また、漁業者が安心して漁船が係留できるように防波堤を建設します。今年度は西防波堤の一部をつくります。(全体計画:平成14年度~平成23年度、総事業費10億6,500万円)

4 商工業の振興

■丹後ちりめんを全国にアピールします

■丹後ファッションウィーク(仮称)の創設【商工費】(新規) 500万円  
(商工観光部 丹後の魅力総合振興課)

丹後ちりめん生地洋装化をはじめ多角的な展開を支援するため、ちりめん生地の高付加価値化した商品の試作品開発・展示会などの取り組みを行い、毎年、丹後からちりめん情報を全国に多彩に発信します。「丹後ファッションウィーク」は、実行委員会によって今年秋ごろに開催される予定です。



丹後ちりめんを使ったドレスなど新しい装い

■丹後の機械金属産業の活性化を図ります

■機械金属産業総合振興事業補助金【商工費】(新規) 500万円  
(商工観光部 商工振興課)

本市の基幹産業のひとつである機械金属産業の下請け構造からの脱却をめざして、新商品・新技術の開発や他地域との交流による新たな販路開拓などの取り組みに対して補助金を交付し支援します。地元企業数社でプロジェクトチームを結成し、京都工芸繊維大学と連携して新たなものづくりの創出を図ることをはじめ、ものづくりのまちとして有名な東大阪市とともに共同展示会を開催することで技術交流や新たなビジネスチャンスの獲得が期待できます。



丹後の機械金属産業の核となる丹後機械工業協同組合

5 観光の振興

■入湯税の積極的な活用に向けて

■観光インフラ整備等促進実行調整費基金の活用【商工費】(新規) 600万円  
(商工観光部 観光振興課)

温泉に入湯したお客さまからいただいている入湯税(1人1日150円)を新たに創設した基金(貯金)に積み立て、観光地として必要かつ魅力的なインフラ整備などに活用します。※平成17年度中に4,520万円を積み立てています。

当初予算では、製造業者が行う観光客の誘客のための見学ルートの整備を支援する観光のまちづくり推進事業補助金に100万円、温泉源改修補助金に100万円、遊海水浴場海浜施設解体事業に400万円を基金から活用する予定にしています。このほかにも、平成18年度中に観光関係団体などのご意見をお聞きして入湯税を有効活用できる事業に使っていくことにしています。



市内に数多くある温泉は、癒(いや)しと安らぎを与えてくれます

■インフラとは

「インフラストラクチャー」の略で、産業や生活の基盤として整備される施設などのことです。一般的には、上下水道設備や道路、電気・通信設備などの固定資産的施設を指します。

■魅力的な観光環境の整備を図ります

■「リフレッシュエリア京丹後」の調査研究【商工費】(新規) 629万円  
(商工観光部 観光振興課)

市内の温泉施設のさらなる有効活用や健康づくりの増進を図るため、京都府と連携して間人・丹後エリアを中心に、地域の特性ある資源(自然環境、薬草、海洋資源、森林、食など)を組み合わせたりフレッシュ・健康づくりのための療法、療養の調査研究に取り組めます。また、プログラムの作成、実践講座の開催なども行います。

■「丹後王国観光情報館(仮称)整備検討委員会の設置【総務費】(新規) 60万円  
(企画政策部 総合戦略課)

丹後の情報発信の拠点施設となる「丹後王国観光情報館(仮称)」整備に向け、検討委員会を設置し、その実施の可否を含めた検討に着手します。

■網野駅観光駐車場の整備【商工費】(新規) 339万円  
(商工観光部 観光振興課)

網野駅は市内で最も観光客の利用が多い駅で、観光シーズンになると旅館や民宿の送迎車両で駅前がたいへん混雑します。このような状況を解消し、観光客や

駅を利用するかたが快適に駅をご利用いただくため、網野駅西側に駐車場を整備します。

■浅茂川温泉「静の里」駐車場の整備【商工費】(新規) 2,390万円  
(商工観光部 観光振興課)

浅茂川温泉を利用されるかたの利便性の向上と安全性を確保するとともに、団体で利用されるかたの受け入れ体制の充実を図るため、新駐車場を整備します。

●主な経費  
駐車場用地の購入費 1,940万円  
駐車場の設計を業者に委託する経費 450万円  
※駐車場整備は平成19年度に行う予定です。

■丹後周遊ボンネットバスの運行【商工費】(継続) 134万円  
(商工観光部 観光振興課)

市民のみなさんに大好評をいただきました丹後周遊ボンネットバスを昨年度に引き続き運行します。市内の観光施設や温泉、歴史的遺産や伝説などを昔懐かしいボンネットバスで巡ります。今年度は市外からの観光客のかたも利用しやすくするように計画し、観光客の増加を図ります。詳しくは、後日広報などでお知らせします。

6 京丹後ブランドの販売戦略

■丹後のブランド産品を『京の丹後屋』で全国に紹介します

■丹後ブランドパイロット事業【商工費】(継続) 652万円  
(商工観光部 丹後の魅力総合振興課)

丹後の情報・魅力の発信と都市との交流の推進を図るため、優れた地場産品をブランド化し、それを広く全国に紹介するインターネット上のショッピングモール『京の丹後屋』を運営するとともに、市場調査および効果的な施策などの検討を行う事業です。この事業の運営は、公募による市内事業者で構成する「丹後ブランド研究会」が主体となって行います。



啓発パンフレット



『京の丹後屋』のホームページアドレスは、<http://www.webtango.jp>です。ぜひご覧ください。